17. 大腿骨頭の Transient Osteoporosis の2例

後藤 靖雄 松橋 俊夫 山崎 哲郎
丸岡 伸 坂本 澄彦 (東北大・放)

妊娠中および出産直後の2例の大腿骨頭の Transient Osteoporosis を経験した．臨床検査，骨頭バイオプシーでは特異な所見を認めなかった．病変部は骨シンチで強い集積を認め，MRI では T1 強調画像で低信号，T2 強調画像で高信号を呈し，治癒過程でそれぞれ画像所見の改善を認めた．

文献的にも妊娠後期女性の左大腿骨頭に多く発症することが知られており，画像診断の有用性が報告されている．われわれの経験からも，その診断および治療評価には骨シンチや MRI が有用であると思われた．

18. Ewing's sarcoma の骨シンチグラフィ

山崎 哲郎 丸岡 伸 後藤 靖雄
松橋 俊夫 坂本 澄彦 (東北大・放)

過去8年間に当科で経験した Ewing's sarcoma 8例について，単純X線写真および骨シンチグラフィを中心にその画像所見を検討した．

単純X線では溶骨性，造骨性，あるいは混合性の変化を示し，一方，骨シンチグラムでは軽度から高度までの集積亢進像を呈したが，両者の所見に一定の関係はなかった．集積低下を示した症例は認められなかった．3例では遠隔転移を疑わせる所見を認めた．^{67}Ga シンチグラムは施行された4例で集積亢進を認めた．MRI は，骨髄腔内進展や骨外軟部組織腫瘤の範囲をよく表すことができた．CT は組織分解能が低く，骨破壊の評価以外では MRI に及ばなかった．骨シンチグラフィの役割は第一義には遠隔転移のスクリーニングであると考えられた．

19. 糖尿病性高浸透圧血症に発症した横紋筋融解症の骨シンチグラフィ

水尾 秀代 伊藤 義雄
(北海道勤医協中央病院・放)

糖尿病による高浸透圧血症に発症した横紋筋融解症の骨シンチグラフィを経験した．症例は61歳の女性で急性腎盂腎炎を契機として，ごく軽微な意識障害をともなう，糖尿病性非ケトン高浸透圧血症になり入院した．筋の腫脹，圧痛はなかったが，全身倦怠感と CPK の上昇があり，横紋筋融解症を疑われ骨シンチグラフィが施行された．症例の CPK は第5病日が最高値 (2,311 IU/L) で，第11病日には正常化し，横紋筋融解症としては比較的軽症であり，また骨シンチグラフィも第9病日とやや遅れたにもかかわらず，右大腿外側に ^{99m}Tc-PYP の筋肉集積をみとめ，障害部位の同定に骨シンチグラフィが有用であった．

20. 骨シンチグラムで集積欠損として認められる肺癌骨転移所見の検討

吉岡 清郎 福田 寛
(東北大・加齢研・機能画像)
山田 健嗣 (仙台厚生病院・放)

骨転移の有無検索を目的とした，2,045例の組織診断のついた肺癌患者の骨シンチグラムの検索の中で，今回は集積欠損として表現された骨異常像を検討した．骨血行転移における集積欠損像は，扁平上皮癌・大細胞癌で出現頻度が高く，腺癌・小細胞癌では低値であった．一方骨直接浸潤による集積欠損像は，直接浸潤がきわめて稀にしか出現しない小細胞癌を除き，腺癌・扁平上皮癌・大細胞癌でその出現頻度に大きな差は認められなかった．血行転移では，転移先でも原発組織の組織性状が保たれているため集積欠損の出現頻度に差が出ると予測され，集積欠損の性状にも組織型による違いが認められた．一方，骨浸潤病巣の集積欠損は，浸潤病巣のサイズに依存して出現することが考えられた．

Presented by Medical*Online